

ひゅうまにあ 通信

Vol.82
2023.03

Contents

R4 ぐんま地域づくり AWARD 受賞団体決定	02
地域づくりネットワーク 西部	04
地域づくり実践講座 「地域づくりネットワーク 県域」	06
第 38 回地域づくり団体全国研修交流会 長崎大会	09
令和 4 年度開催事業	11
事務局からのお知らせ	12



令和 4 年度ぐんま地域づくり AWARD 受賞団体



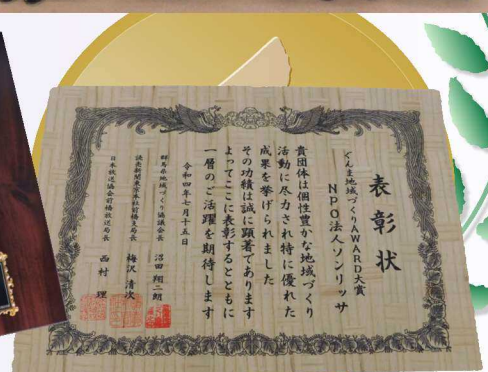
ぐんま地域づくり AWARD 2022

群馬県地域づくり協議会では、「ぐんま地域づくり AWARD」を設け、活力ある地域づくりに取り組んでいる優れた団体等を顕彰しています。

本年度は、「NPO 法人ソンリッサ」がぐんま地域づくり AWARD 大賞、「群馬県立大間々高等学校」「NPO 法人 Mam' s Style」がぐんま地域づくり AWARD 奨励賞に輝きました。

本賞は、地域づくり活動の成果をアピールする機会として、魅力ある地域づくりの更なる進展を図る契機とするため設けているものです。

来年度も日頃より地域づくりを頑張られている団体の皆さんからのご応募を、心よりお待ちしております。



ぐんま地域づくり AWARD 大賞



NPO 法人ソンリッサ（前橋市）

代表 萩原 涼平 氏

私たちは、一人で抱えずにやさしいつながりが溢れる社会を目指して、高齢者の孤立・孤独を解決するために、活動をしています。

このような機会をいただき、たくさんの方々に支えられて、事業を継続することができています。ひとつひとつ着実に事業を積み重ねていきながら、群馬県の地域づくりに貢献できるよう頑張っていきたいと思いますので、今後ともよろしくお願いいたします。



奨励賞

群馬県立大間々高等学校(みどり市)

みらい塾の皆さん

表彰をいただき本当にありがとうございます。大間々高校「みらい塾」は地域活性化についてフィールドワークを行ったりなど、たくさんの方が活動しています。今後も地域の活性化に協力して、頑張っていきたいと思っています。この度は、本当にありがとうございました。



奨励賞

NPO 法人 Mam's Style(前橋市)

理事長 櫻井 弥生 氏

前橋市で、母親の自立を支援しております。今回は NPO 法人 Mam's Style として表彰いただきましたけれども、本当であれば、支援者とまた被支援者と、また様々なステークホルダーの皆様とのご縁があって、このような形になったと思っております。この度は、表彰いただきありがとうございました。



講評

読売新聞東京本社前橋支局 梅沢 清次 支局長

応募いただいた 19 団体は、問題意識を持ってそれぞれ工夫を凝らして活動していました。審査にあたって重視した点は、どのくらい地域と密着しているか。良い意味で地域の人たちを巻き込んでいるか。地域に根付いた活動をしているか。これらが出来ていれば活動も継続し、発展していく期待が持てるということで判断しました。

ソンリッサさんは、きっかけが代表の萩原さんご自身の体験で、お祖父さんが亡くなられ、お仕事を手伝われていたお祖母さんが社会から取り残される様子を見て何とかしたいと。同じ思いや体験をしている方が増えています。「孫マネージャー」として、研修を積んだ若い方が自宅に行き話し相手になる。回数を重ねて、社会とのつながりを取り戻していく様子を私達にも見える化してくれました。「ソンリッサ」はスペイン語で笑顔。活動する方も支援を受ける側も周りの人も笑顔になれるように、頑張ってください。



大間々高校さんは、コロナで学校が休校になり、地域や観光業、わたらせ渓谷鐵道にも影響が広がりました。地域みんなが元気になるようにと PR を開始。同時期に制服の自由化に取り組んで、「多様性を大切にする社会のメッセージ」として発信しました。一年生も入り活動がさらに活発になるのを期待しています。

Mam's Style さんは、家族だけでなく地域の人たちや友達同士で、かつてあったおさがり文化に着目して取り組んでいます。子育てをしているお母さんたちが持ち寄り、誰でも無理なく出来ること。古着を集め、必要な人に届け、環境にもやさしい。活動拠点も地域のお母さんたちの居場所になる。他の地域にも広がるよう情報発信していただけたらと思います。

皆様ぜひこれからも活動を続けていってください。この度は、おめでとうございます。

地域づくり ネットワーク

西部

Zoom 開催

令和4年12月14日に「地域づくりネットワーク 西部」を開催しました。西部地区の藤岡市地域づくり課に全体を取り仕切りいただき、司会を務めていただきました。ありがとうございました。

第一部では、各団体から「やりたいこと、得意なこと、苦手なこと、協力してほしいこと」を『5分』のエレベーターピッチで発表いただき、第二部では、当協議会の副会長 秋山麻紀氏をコーディネーターにお迎えし、発表内容の掘り下げやアイデア、解決策などを出し合いながらの交流会を行いました。その第一部の発表団体プレゼンテーションの概要をお伝えします。

NPO法人DNA



実は自己肯定感が低いまま思春期を過ごす10代がたくさんいます。そこで、群馬県内の学生や社会人の方が中学校や高校に出向き、生徒の悩みや疑問に寄り添って一緒に考えて一緒に学ぶ授業「未来の教室」を届けています。一歩が踏み出せない中高生に対して、一歩を踏み出すきっかけの授業です。

大切にしているのは、多様で豊かな対話と人とのつながりです。新しい自分、可能性を発見することができます。

平日の活動もあるので、新しいボランティアスタッフの方が集まりにくいです。当法人で行っているキャリア教育コーディネーターの養成講座、「未来の教室」の先輩とともに授業を届けていきませんか？もし興味ある方は、SNSなどで詳しく発信しているので、ぜひご覧いただき、お声掛けください。

藤岡リジャイナかけ橋プロジェクト

藤岡に360冊の「英語の絵本」が届きました。2019年8月リジャイナと友好都市フレンドシップ協定の締結を受け、市民レベルで交流しようと発足。テーマは「藤岡の日常からの世界と繋がろう！」活動は、英語の絵本の読み聞かせ会、月1回「かけ橋通信」発行。市の「藤の咲く丘・花の谷」で花壇作りなど。また、小中学校に英語の絵本の貸し出しを開始。

子供たちから感想のメッセージカードを書いてもらっているので、リジャイナに送りたいと思っています。

なかなか資金力や人手がなく、活動の場を広げたいとき、人の流れができてないのが悩みです。他の団体さんがどのように人を巻き込んでいるのかを伺いたと思います。

公式のLINEアカウントもありますので、よければ皆さんつながりましょう！



NPO法人学習塾 HOPE



経済的に厳しい家庭の小中高生たちがじっくり学べ、様々な相談ができる場所として、高崎・前橋・安中・藤岡・玉村・甘楽の各市町に16教室開いています。

「地域の子どもは地域で育てる」をスローガンに、子どもたちを地域の大人たちがボランティアで支援する形が元になっています。何かのイベント等での関係とは違い、長く続くもので相互信頼を大切にしています。そのため、ボランティア講師の様々な経験や知識を相互に活かしつつ協力して進めています。

子どもたちみんなが通信環境に恵まれているわけではないので、いかにこの活動について情報提供ができるかが問題です。もし困っている家庭の情報がありましたら、「学習塾 HOPE に相談して」と言っていただけるとありがたいと思います。

百年の杜プロジェクト実行委員会

私有地のこの場所に、約1500坪の木造りの酒屋さんと三本の大きな「トチノキ」がありました。今生きている木は一本だけ。地主の方が当時を思い出し100年後も地域の方々に残したいという思いからこのプロジェクトが始まりました。様々な業種の方が集まり、現在枯れた2本目のトチノキの土地を基盤にツリーデッキ・ツリーハウスを作ろうとしています。環境再生で有名な矢野智徳さんのワークショップで、開発された土地は水の回りが良くないと教わり、環境を打破するためにワークショップを開催します。100年後にも残せるようにする活動をしています。

お金が掛かるので、クラウドファンディングも立ち上げる予定です。まだ設立間もない団体なので、回数やイベントはできてないのですが皆さんの活動から勉強させていただき、告知部分が弱いので、お知恵を拝借できればと思っています。



ぐんま里山学校



高崎市の上室田町にあるフリースクールで、主に不登校の子どもたちが通っており、中には学校に復帰をしていく子ども達もいます。自然豊かな里山で、農業体験、自然観察、野外炊事等の体験活動の他、パソコンを使った調べ学習、音楽、科学実験等に取り組んでいます。子ども達のやりたいことができるように幅広い環境づくりに努めています。まずは家から出て、健康的な生活を送り、少しずつやりたいことに取り組む中で、基礎学習やコミュニケーションなど、前向きに生きてく力を育んでいるところです。

得意なこと...スタッフは、自然体験に関する知識や技術をもっておりますので、ネイチャークラフトなどの出前授業が可能です。

協力してほしいこと...不要になった単管パイプや屋根材がありましたら、譲っていただけると助かります。子ども達の遊び場作りに活用させていただきます。よろしくお願いいたします。

地域づくり ネットワーク 県域

令和4年度地域づくり実践講座 Zoom 開催

令和5年3月15日に地域づくり実践講座「地域づくりネットワーク 県域」を開催しました。西部と同様に第一部では、各団体から「やりたいこと、得意なこと、苦手なこと、協力してほしいこと」を『5分』のエレベーターピッチで発表いただき、第二部では、当協議会の会長 沼田翔二郎氏をコーディネーターにお迎えし、発表内容の掘り下げやアイデア、解決策などを出し合いながらの交流会を行いました。その第一部の発表団体プレゼンテーションの概要をお伝えします。

ボランティア団体信愛えんがわカフェ

閉演した信愛幼稚園の園舎を再活用した地域交流団体です。子ども食堂として毎回140食以上を配食。他にはフードパントリー、パソコンクラブ、学習支援など、子どもから高齢者まで、縁側的な居場所づくりをしています。教会と関連のある子たちも一緒にご飯を食べています。ボランティアとして渋川女子高生など、たくさんの高校生や大学生たちが来てくれています。これからは、コロナ禍でできなかった対面での食事や朝食の提供、夜の子ども食堂の開催。高齢者のためのカフェなどを徐々にやっていきたいと思っています。

教えてもらいたいことは、心理的安全性の構築です。初めて会った人同士が協力して活動を行い、継続することの難しさ。他人同士が柔軟に協力して課題に向かっていくためにはどうしたらいいかを考えているので、ぜひ教えてください。



日本正月協会



日本全国各地のお正月料理やお正月行事、風習や飾りといった、郷土のお正月の文化を調査研究し、情報発信しています。お正月の郷土文化は、地域の個性や地域性を最も強く表しており、それを大事にすることで、これからの日本の観光産業を活性化させたり、地域のつながりを作っていくと考えています。地域のお正月を知り、興味を持って行うことで地域への往来が活発化し、地域が活性化します。

得意なことは、お正月の知識や情報が豊富で、全国的なつながりがあること。苦手なことは、組織がまだ小さく、大きな動きができていないことです。やりたいことは、お正月座談会の開催領域拡大です。協力して欲しいことは、場所や機会を提供していただきたいことと、人を集めるのにご協力いただきたいということですの2点です。

村の喫茶店もくもく



喫茶店なのですが、南牧村の多世代交流カフェという施設を使う形で営業しています。土曜日から月曜日は普通の喫茶店。それ以外の平日にいろいろな教室やイベント等を不定期で開催し、地域の方や村を訪れた方に様々な形で交流が生まれるお店づくりをしています。また、イベントは自分たちだけではなく、地域の方も主催をしています。他にも、放課後の居場所づくりの一環として毎週小学校に出向いて「世界の遊びプログラム」を開催。中学生には毎週夜にお店に来てもらい英会話教室を村のALT先生に協力してもらっています。

高齢化率がすごく高くて子供が少ない地域がらなので、同年代と遊んだり触れ合ったりする機会が少ないので、他の地域の子供たちや大人の皆さんとの触れ合いの中で、幅を広げて経験をさせてあげたらいいなと思っているところです。

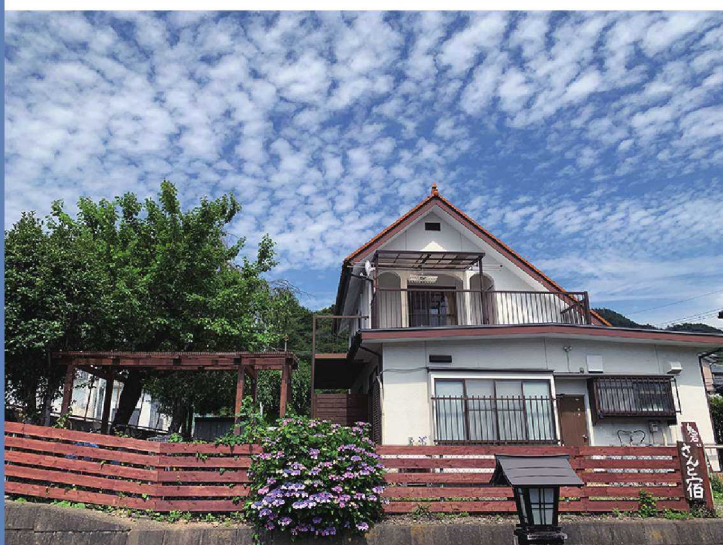
子育て支援サークルおはなひろば

おはなひろばでは、三つの活動がメインになっています。「公民館」水曜の午前中に活動。季節のイベントや新聞紙遊びなど、また月1回リトミックの先生が来てくれます。「おはなサロン」主に少人数のワークショップやサークル活動を行っています。また、有料ですが、夏休みクラブを開催し、週3回公園へ出かけたり、制作活動などの体験ができます。2022年度は駐車場の空き地を利用してフリマ会などを開催。「おはな自然農園」種まきから始まり春から夏にかけて草花摘みなど野外活動の拠点となっています。農園内の柿や桃を収穫することもできます。

得意なことは楽しい活動や遊び場やワークショップなどの提供で、他の団体さんとの交流活動が苦手です。活動やイベントなどお声掛けいただけたらと思っています。協力してやることで、新しい何か化学反応のようなことが生まれたいと思います。



鬼石ゲストハウスさんと宿^(す)



素泊まりの宿を運営しています。海外に行ったときバックパッカー宿に旅人がよく泊まることからヒントを得て、空き家を地域の人たちと直して作りました。三波石と冬桜が有名な藤岡市鬼石ですが、三波川では水遊びやホテル観賞ができるすごく自然豊かなエリアです。実際アメリカ人アーティストのキールさんが町を気に入って住んでいて、さらに世界中からアーティストを呼ぶ取り組みで、国際交流も盛んにできます。バイオリンを制作してる金子さんのつながりで、音楽家も来てくれて演奏会などコラボしてやっています。お客さんとタケノコ狩りや梅を採ってシロップを作ったり、庭でバーベキューをしたりなど。あと、公民館を借りて、イベントやワークショップ、コーヒー販売など。教室や演奏会などを行っています。

宿では、いろいろな人たちとコラボができるのではないかなと思っていますので、お声がけください！よろしくお願いします。

NPO 法人あいず



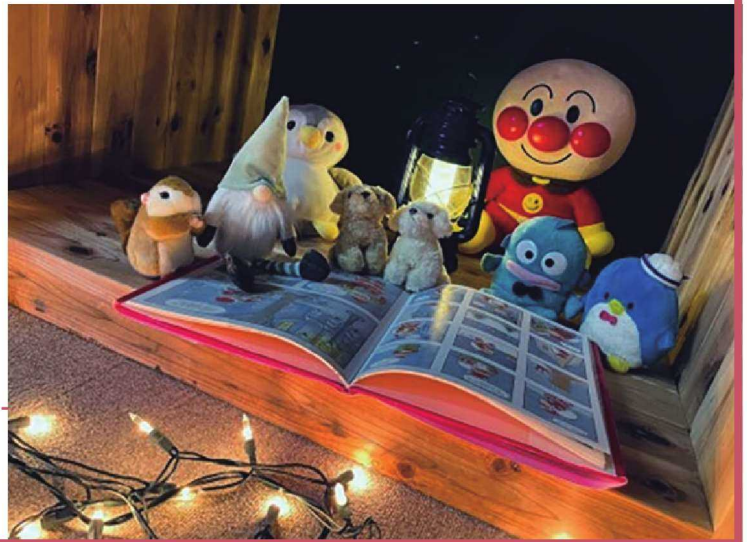
子どもからお年寄りまでが安心して自分らしくいられる社会づくりを。「遊び」は色んな分野が関わられます。特に震災のボランティア活動を通して感じました。子供たちにとって遊ぶことは生きること。自由に遊ぶ権利を保障される街でありたいです。研修会の開催やフリースペースの運営などを行っています。放課後の居場所づくりと遊び場の届け事業。遊びの環境整備を考えています。古民家を改装してフリースペースとして提供。子供たちが将来昔はこんなことがあったと笑って懐かしめる環境整備をやりたいと思っています。そこで、通学路周辺の清掃やお寺の竹林を整備して遊び場にしようと思っています。

現場スタッフが私とたまに来るボランティアスタッフなので、なかなか人員が確保できないこと。事業費や人件費をどのように捻出するか、収益が課題です。

下仁田町公民館図書室

読書以外にも楽しいことがある。そんな図書室づくりをやりたくて進めています。以前は窓の前にも本棚があり学習テーブルが多く窮屈で暗い印象でしたが、レイアウトを変えることで明るくなりスペースができました。絵本コーナーには町の木に触れられる機会にと森林組合から無償で借りてきた木のおうちを置いて、「こびとのおうち」をスタート。疑似体験を通して子供たちに親しんでもらうものです。第1回目はぬいぐるみお泊まり会。これをフェイスブックに投稿したり、カレンダーを作成して渡しています。拡散することで、遊びに来てくれる子供が増え、保護者も興味を持ってきて、以前よりコミュニケーションが取れるようになりました。

皆さんの「こんな図書室があったらいいな」をぜひ共有したいです。それを形にできる図書室づくり、人づくりを継続してやりながらいろんな人とつながっていきたいと考えています。



群馬 NPO 協議会



昭和庁舎 1 階のボランティアサロンぐんまの委託運営。ボランティア情報や NPO 法人設立の相談など。イベントの企画、組織基盤強化の助成金給付、協働のきっかけづくりをしています。色々な話を聞くと、社会課題が複雑になり一つの団体でできる活動の限界を感じています。早く訴求力のある活動をするためにも、協働がより必要になります。そこで、考えや思いを共有する場として実施しているのが企業との座談会です。組織のコミュニケーションの中で、相手が何を大事に思っているのかを知り、ともに目指すことができる共通の課題を探していくことを実施していきたいと思っています。

様々な年代がいる中、情報の発信のデジタル化をどうすればいいかをぜひ教えていただきたいと思います。また、会員募集中ですのでぜひ皆さん一緒に活動していただければと思います。



第38回地域づくり団体全国研修交流会 長崎大会 参加レポート 群馬県地域創生課 中津瀬さん

「地域づくり団体全国研修交流会」は、地域づくりの全国レベルの研修や相互の情報交換の場として、毎年開催されているイベントです。

第38回の今年は「長崎県」。異国文化を受け入れ発展してきた「開国の地」の地域づくりはどのようなものなのか。新型コロナによる2年間の延期を乗り越え、開催された様子をレポートします。

地域づくりの夜明けは長崎から。

長崎県は、九州地方の西北部に位置し、人口は約128万人。47都道府県中で最も島が多いことで知られています。古くより海外との交流拠点として栄えてきた地域で、「開国の地」の名の通り、2018年に世界文化遺産に登録された「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」や「軍艦島」(端島炭鉱)など、多彩な歴史遺産が点在しています。

全体会の会場となった長崎市では、2022年9月に九州新幹線の西九州ルート(長崎～武雄温泉)が開業、長崎駅前とはかつてないほどの大規模開発が進行中と、「100年に一度」と言われる変革期を迎えている地域でもあります。



大規模開発が進む長崎駅前

初日は、長崎居留地男性合唱団による歓迎セレモニーからスタート。全体交流会と銘打って、東は青森、西は沖縄より集いし地域づくり関係者が、地域の垣根を越えて思い思いに交流を行いました。



長崎居留地男性合唱団
「あの鐘を鳴らすのはあなた」

翌朝からは、離島含む県内13カ所の分科会に分かれて現地研修開始。筆者は島原半島南部に位置する南島原市を訪問し、有馬キリシタン関連遺産の視察や、名産品のそうめん生産工場の視察、町ぐるみで取り組んでいる民泊体験などに参加してきました。

地域の宝でまちづくり、長崎県南島原市

南島原市は、女優の満島ひかりさんを起用した“尖りきった”プロモーションビデオが話題となった地域です。

2006年に8町が合併して誕生した比較的新しい自治体で、人口は約4.3万人(R4.3月末現在)ほど。雲仙山麓から広がる肥沃な土壌を有し、農業を中心とした1次産業が盛んな地域で、名産品の「島原そうめん」は全国第2位の出荷額とか。

天草四郎率いるキリシタン農民が蜂起した「島原・天草一揆」の舞台として、世界文化遺産「原城跡」をはじめ、国内におけるキリスト教の歴史を感じることのできる遺産も数多く残っています。

40年の歳月をかけて制作された、世界最大級の木彫り彫刻

最初に訪れたのは、「原城の聖マリア観音」。神奈川県在住の彫刻家 親松 英治氏が、「島原・天草一揆」で亡くなられた約3万7千人の住民の慰霊を目的に約40年間の歳月をかけて製作したもので、高さ約10mもある世界最大級の木彫り彫刻です。



約 40 年もの歳月をかけて制作された
「原城の聖マリア観音」

訪問時、偶然にも親松さんご本人が、完成目前のマリア観音に名前を刻印する作業をされていました。親松さんは、40 年間毎日、本業の彫刻制作を 8 時間、マリア像の制作に 8 時間取り組んでいたそう（合計 16 時間！）。巨大なマリア像から放たれる圧倒的な存在感と、40 年という歳月の重さに息をのみます。

もともとは行政主導で南島原市内への設置が進んでいたそうですが、政教分離原則に反するとの声から計画は頓挫。紆余曲折あり、南島原市民有志が設立した「南島原世界遺産市民の会」が中心となって、地域ぐるみで受け入れ態勢を整えました。

マリア像の移設・設置費用は広く一般から募り、約 4200 万円もの寄付を集めたそうです。マリア像が設置されている土地も、PJ に賛同した市民の方が無償で提供したものです。



マリア観音が設置されている高台からの眺め

親松氏の強い想い、そこに賛同した市民の熱意が重なり誕生する新たな地域のシンボル「原城の聖マリア観音」。島原・天草一揆の舞台となった原城跡を望む高台に設置され、一般公開も始まっています。市民の熱意が地域を動かしたこの取り組みの中に、地域づくりの神髄を見た気がしました。

その後も充実の視察先を巡り、現地研修の最後に、南島原市が地域ぐるみで進めている民泊体験を行いました。

市内に 150 以上の民泊受入れ家庭

現在、南島原市には、約 150 もの民泊受け入れ家庭があるそうです。もともと宿泊施設が少ない地域なのもあり、市民有志が結成した民泊推進を目的とした NPO の動きに行政が呼応。地道に受け入れの輪を広げて、2019 年には年間 1 万人を受け入れるまでに成長しました。

メインターゲットは修学旅行による学校単位の受け入れですが、台湾や韓国、中国などのインバウンドも積極的に受け入れているそうです。

民泊体験の流れ

<1日目 午後>

入村式

農林漁業体験

※受入家庭ごとに季節に応じた多様な体験を用意。
漁業が人気だそう。

夕飯づくり・入浴・団らん

<2日目 午前>

地域散策・朝食づくり

離村式（民泊先とお別れ）

離村式で涙する学生が続出？

分科会にて上映されたプロモーションムービーでは、民泊体験を行った中学生が離村式で号泣する様子が。「そんなことあるの？」と疑っていましたが、受入先のご家庭でこれでもかとおもてなしを受け、会って数時間で「お父さん」「お母さん」と呼びたくなるまでに。時間を忘れて夜なべ談義に勤しんだのでした。

南島原市の民泊事業は、市や観光協会などのパブリックセクターが支援制度を用意し、地道に地域を回って受け入れ家庭を発掘してきたそうです。

市民からはじまった動きを行政がエンパワーし、まちぐるみで取り組みが加速する。官民が連携した良い事例だと感じました。

とはいえ、縁もゆかりもない人を自宅に受け入れる民泊事業、語弊を恐れずに言えば、「人たらし」でないといけません。「開国の地」という風土、よそ者を拒まない空気こそが、地域ぐるみの民泊事業を支えているのかもしれない。

来年は島根県で開催予定！

世界からみれば小さな島国の日本ですが、国内には驚くほど多様な地域があります。地域ごとに、多様な人が生き、多様なコミュニティがある。

地元の課題を解決する答えが先進地にあるわけではないですが、その多様性をこの目で覗いてみるだけで、新しいアイデアや行動のキッカケが生まれるかもしれません。来年は島根県を舞台に開催予定。ぜひ参加してみてはいかがでしょうか。

市町村説明会 5/25

市町村担当課の方、または関わりのある担当の方に、当協議会の成り立ちや役割・目的についての説明会を Zoom にて開催しました。

内容

1. 「群馬県地域づくり協議会」基本概要について
2. 協議会が目指すこと・役割・活動について
3. 2022 年度～ 2023 年度の協議会活動について
4. 参考情報

市町村説明会

群馬県地域づくり協議会は
群馬の未来を共に創るためのプラットフォームです。

地域づくり活動を行う団体や個人を応援し、
顔の見える繋がりづくりをおこなっています。

<https://www.pref.gunma.jp/04/b1510056.html>



② 市町村職員向け研修・情報交換ワークショップ



市町村職員向けの研修会・WS

○5月頃：新担当者向けの研修

○9月頃：地域づくり情報交換WS

2022年度からスタート
9月頃に初開催いたします！

市町村交流会 10/11

35市町村の職員同士が「地域づくり」に関する情報・悩みを交換し合い、自らの地域のこれからを共に考えていく「市町村交流会」を開催しました。

内容

オリエンテーション・参加者自己紹介

- ① 現状把握：現在の仕事内容&やりがい・悩みは？
 - ② 理想想像：仕事内容の理想イメージは？
 - ③ 未来創造：これからの地域づくりで大切にしたいことは？
 - ④ 具体実践：よりよい地域づくりを進めていくために実践したいことは？
- まとめ・振り返り

地域づくり講演会 11/30

『魅せる』地域づくりのデザイン

studio-L 代表山崎 亮氏をお招きして、県庁 32 階 NETSUGEN で、会場と Zoom のハイブリッドにて開催しました。

初めに、近くの席にいる 4～5 人で地域づくり活動の内容について話し合い (Zoom はチャットを活用)、発表した内容にお答えいただく形で、様々な地域づくりの事業についてお話いただきました。





新規加盟団体

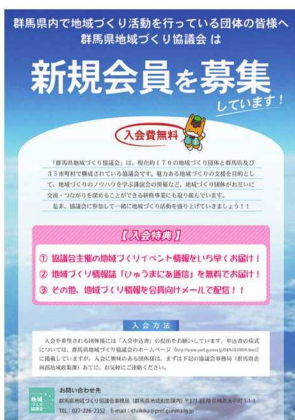
NPO法人ソンリッサ

地域の人間関係の希薄化・孤立化により、高齢者が抱える課題を解決し、笑顔で活動的になるようにサポート。地域健康サロンの実施、独居高齢者見守りサービス「Tayory」、地域&企業向け研修事業などを展開。



NPO法人ターサ・エデュケーション

様々な事情を抱えている小中学生たちに、それぞれの問題に合わせて、学習動画の無料配信（note）、家庭教師派遣、フリースクールの運営、夏期限定イベントなどの事業を実施。学力向上や自己肯定感の向上、つながりづくりなどを創出している。



新規団体の募集

「群馬県地域づくり協議会」は、現在約105の地域づくり団体と群馬県及び35市町村で構成されている協議会です。魅力ある地域づくりの支援を目的として、地域づくりのノウハウを学ぶ講演会の開催など、地域づくり団体がお互いに交流・つながりを深めることができる研修事業にも取り組んでいます。

是非、協議会に参加して一緒に地域づくり活動を盛り上げていきましょう！！入会方法はホームページをご覧ください！

団体情報の変更について

団体代表者、住所、電話番号、メール等、登録情報の変更がありましたら随時事務局までご連絡ください。ご連絡がない場合、事務局からのお知らせが届かないなど、ご不便をおかけすることになりますので、ご協力をお願いいたします。

メール・郵便・電話等で
事務局までご連絡ください！



群馬県地域づくり協議会発行（群馬県地域創生部地域創生課内）
〒371-8570 群馬県前橋市大手町1-1-1
TEL：027-226-2352（直通）
URL：<https://www.pref.gunma.jp/site/chidukyo/>

群馬県地域づくり協議会

検索